

# 2022年11月6日 調布教会 召天者記念礼拝 式文

## ●『讚美歌』80番

1. わがしゅのみわざは ことごとただし たえなるみむねに すべてをまかせん  
しゅはわがかみなり ともしきときの わがたすけなり
2. わがしゅのみわざは ことごとただし うえなきまことは とわにかわらじ  
くらきはひかりを よしかくすとも いかでかおそれん
3. わがしゅのみわざは ことごとただし たえなるみむねを いまはしらねど  
しのびてまちなば さぎりもはるる あしたはきたらん
4. わがしゅのみわざは ことごとただし あらしのなかにも やすけくいこわん  
しゅはわがちちなり なやめるときの わがすくいなり アーメン

## ●交読文 詩編 105 編 1～11

主はわたしたちの神  
主の裁きは全地に及ぶ。  
主はとこしえに契約を御心に留められる  
千代に及ぼすように命じられた御言葉を  
アブラハムと結ばれた契約  
イサクに対する誓いを。  
主はそれをヤコブに対する掟とし  
イスラエルへのとこしえの契約として立て  
宣言された  
「わたしはあなたにカナンの地を  
嗣業として継がせよう」と。

主に感謝をささげて御名を呼べ。  
諸国の民に御業を示せ。  
主に向かつて歌い、ほめ歌をうたい  
驚くべき御業をことごとく歌え。  
聖なる御名を誇りとせよ。  
主を求めよ、心を喜びを抱き  
主を、主の御力を求めよ。  
常に御顔を求めよ。  
主の成し遂げられた驚くべき御業と奇跡を  
主の口から出る裁きを心に留めよ。  
主の僕アブラハムの子孫よ  
ヤコブの子ら、主に選ばれた人々よ。

## ●『讚美歌 2 1』572番

1. 主をあがめよ 死すべきもの 感謝をささげ 勝利をうたえ 心高く上げ 喜び 喜べ
  2. 罪人らの あがないぬし 王なるイエスは 天に座したもう 心高く上げ 喜び 喜べ
  3. いつくしみと まことの神 イエスの国は 永遠に栄えん 心高く上げ 喜び 喜べ
  4. 終わりの時 しもべたちを 主はみ国へ 導きたもう  
ラッパは鳴り響かん 望みて 喜べ
- アーメン

## ●『讚美歌 2 1』458番

1. 信仰こそ旅路を みちびく杖 弱きを強むる 力なれば  
こころ勇ましく 旅を続け行かん 恐るべきものは この世になし
2. わが主をかしらと 仰ぎ見れば 力の泉は 湧きて尽きず  
恵み深き主のみ 傷示されて わずかに残る火 ふたたび燃ゆ
3. 主イエスの足跡 たどり行けば けわしき山路も 越え行くを得ん  
疲るることなく 迷うこともなし ひたすらみ神へ 近づきゆかん
4. 信仰こそわが身の 杖と頼まん 炎も剣も 何かはあらん  
代々の聖徒らを 強く生かしたる いのちの聖霊 与えたまえ



アーメン

## ●『讚美歌』542番

1. 世をこぞりて ほめたたえよ みさかえつきせぬ あまつ神を
- アーメン

## ●聖書

### 【創世記 18 章 1～15 節】

1 主はマムレの櫨の木のでアブラハムに現れた。暑い真昼に、アブラハムは天幕の入り口に座っていた。2 目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、3 言った。「お客様、よろしければ、どうか、僕のもとを通り過ぎないでください。4 水を少々持って来させますから、足を洗って、木陰でどうぞひと休みなさってください。5 何か召し上がるものを調べますので、疲れをいやしてから、お出かけください。せっかく、僕の所の近くをお通りになったのですから。」その人たちは言った。「では、お言葉どおりにしましょう。」6 アブラハムは急いで天幕に戻り、サラのところに来て言った。「早く、上等の小麦粉を三セアほどこねて、パン菓子をこしらえなさい。」7 アブラハムは牛の群れのところへ走って行き、柔らかくておいしそうな子牛を選び、召し使いに渡し、急いで料理させた。8 アブラハムは、凝乳、乳、出来立ての子牛の料理などを運び、彼らの前に並べた。そして、彼らが木陰で食事をしている間、そばに立って給仕をした。9 彼らはアブラハムに尋ねた。「あなたの妻のサラはどこにいますか。」「はい、天幕の中におります」とアブラハムが答えると、10 彼らの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずここにまた来ますが、そのころには、あなたの妻のサラに男の子が生まれているでしょう。」サラは、すぐ後ろの天幕の入り口で聞いていた。11 アブラハムもサラも多くの日を重ねて老人になっており、しかもサラは月のものがとうになくなっていった。12 サラはひそかに笑った。自分は年をとり、もはや楽しみがあるはずもなし、主人も年老いているのに、と思ったのである。13 主はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑ったのか。なぜ年をとった自分に子供が生まれるはずがないと思ったのだ。14 主に不可能なことがあろうか。来年の今ごろ、わたしはここに戻ってくる。そのころ、サラには必ず男の子が生まれている。」15 サラは恐ろしくなり、打ち消して言った。「わたしは笑いませんでした。」主は言われた。「いや、あなたは確かに笑った。」

### 【ルカによる福音書 3 章 1～14 節】

1 皇帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、2 アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った。3 そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行き、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。4 これは、預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。5 谷はすべて埋められ、／山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、／でこぼこの道は平らになり、6 人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』」7 そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。8 悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。言うておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことができになる。9 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」10 そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。11 ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。12 徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。13 ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。14 兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。

